

(前ページから続く)

る「学校支援ボランティア」という概念の由来、学校支援ボランティアが10年前本格的に叫ばれた背景事情、社会人(わはこれに含まれる)以外の学校支援者である大学生スクールサポーター制度の現状等、「学校支援ボランティア」というテーマを幅広い視点から解説いただきました。

(4) 平成21年度小学校からの支援要請とわの対応状況

中沢委員長から7月21日現在における市内各小学校(特別支援校を含む)からの支援要請とその対応状況につき、第1表のとおり報告がありました。

[第1表]

支援要請校	支援校(支援者数)	未支援校	対応率
51校	37校(延べ87名)	14校	72.5%

7月末現在未支援校とその要請内容は第2表のとおりです。支援には特別な資格は要しません。奮ってチャレンジしてみてください。

[第2表]

区	小学校名(要請内容) (注) は特別支援
東灘区	本山第二()
兵庫区	夢野の丘(算数・国語)
北区	泉台() 長尾()
須磨区	東須磨() 神の谷() 花谷(野菜づくり)
垂水区	塩谷() 多聞南() 千鳥が丘(運針・ミシン・そろばん)
西区	櫻野台() 出合() 東町() 押部谷()

2. グループディスカッション

各グループ毎に真剣な意見交換が行われましたが、各グループにおける主な討議内容は以下のとおりです。

(1) 学習支援候補者グループ

分科会で支援活動者から学習支援の実体験談を聞いたかった。

(2) 特別支援グループ

①支援者を単なる「便利屋さん」と思っている学校と深い感謝の気持ちを持って接してくれる学校とのその落差は大きい。(校長・教頭の支援者に対する態度も学校によって千差万別。)

特別支援をしていく中で対児童、対先生、対学校について悩みが多く、その都度相談する相手が欲しい。ハケ口がほしい。

(3) 教科の補助担当グループ

①戦争体験を聞いたがるこどもが増えているが、その背景にはまだまだ戦争遂行に蓋をしたがる我が国特有の国民意識が根強いことに留意すべきである。

②支援校ごとに学期初めには担任を交えた懇談の場を要望したい。

③学習支援は社会的に有為であり、永続させるべき事業につき、最低限の出費(交通費実費)は補償されて然るべきである。

④学習支援が果たしている活動領域や貢献内容をもっと市当局にPRすべきである

(4) 登録しているが活動していないグループ

①過年度の活動紹介

北区の某小学校で図書室整理や図書の読み聞かせを3年間担当。その間学校との打合せなし。

木津小で算数を中心に国語、図工、音楽、体育の授業補助やなかよし学級を過去5年間担当してきた。

垂水区の福田小のなかよし学級で、地域の史跡、文化財紹介の学習を担当した。

②登録済みなも未稼働の理由

3カ年活動してきたが、今年小学校から連絡なし。(事前に本人にも連絡なし。あれば応ずる意思あり。)

英語の支援活動志望。東落合小に2学期から行くことに決定。

多くのボランティアをやっているため、特定曜日の継続支援は無理。総合学習のゲストティチャのようなスポット対応なら可。

③小学校側の受入態勢上指摘された問題

支援者の位置付けが学校内で不明確且つPR不足。

(次ページに続く)